

**【第288号 紙面案内】**

第2～3面……理事会等報告／第3～4面……全国研究大会参加記／第5～8面……各部署からの連絡

シンボル化したロゴマーク

日本マネジメント学会会長 加藤 茂夫（専修大学）

経営学の進化を推し進める研究とその実践を通して社会貢献する当学会の使命は益々重要性を帯びてこよう。社会を形成する多様な要素が複雑化し、不安定化する状況の中で失敗を恐れない人材の育成が急がれる。教育制度の改革は当然実施しなければならないだろうし、若者を異文化に触れる機会を与えることが急務である。このような前向きの精神力は多くの国民が目指すべきパラダイムとして定着させることが肝要だろう。

日本人の考え方において変えてはならないよき側面と変えなければならない部分を見極めることである。不易流行である。日本の経営の特徴を恐れず一言で表現するならば「人を活かし、大切に経営」であった。多くの研究者もそうであろうが私としてもその基本理念を活かす理論構築、実践を心掛けているつもりである。

企業組織においては前例踏襲、内向き志向、出る杭を打つ等官僚的マイナス面が目につく。我が国において素晴らしい企業と称されている経営者層に異質な外部からの人材を登用する動きが加速している。生え抜きではなくヘッドハンティングである。経営者人材の枯渇なのかそれともキャリア形成がまずかったのか、どうか？もしかしたら日本企業に蔓延している病なのか？企業の成長に伴って多様な変革をする際に通過する成長ステージの踊り場としての課題・問題点である。組織に存在する壁を打破し、多様な考え方を受け入れるダイバーシティマネジメントが叫ばれる所以である。このような変化に対応できる人材のイメージは「創造的で進取な心を持ち、リスクに果敢に挑戦する意欲と志・夢・責任感・倫理観を持つ心の様相－ entrepreneurship－ベンチャースピリット」を持続的に保持できるかどうかであろう。このような人材をどう育てるか？一つの方法は M. F. ルビンシュタインが述べている「カオスの縁に身を置く経営」の実践である。また、カルチャー、環境の整備であろうし、ビジョンや経営哲学を組織に浸透させるためのシンボル化した錦の御旗を掲げることである。将来に夢と希望の御旗を私たち自身が持ち、教育現場や学会で議論することであろう。全国大会での総会、理事会でご承諾していただいたことであるが日本マネジメント学会が夢と希望に燃えていることを表現する学会のロゴマークを鋭意作成中である。シンボルマークの下に学会がまとめ、社会貢献できればと思っている。

常任理事会報告

日 時 平成 26 年 5 月 10 日 (土)

場 所 山城経営研究所 会議室

議 題

(1) 全国研究大会の件

第 67 回全国研究大会 (和光大学)、第 68 回全国研究大会 (九州産業大学) が成功裏に開催されたことが報告された。

(2) 平成 25 年度決算の件

平成 25 年度における本学会の活動報告ならびに会計報告が承認された。

(3) 平成 26 年度予算の件

平成 26 年度における本学会の活動案ならびに予算案が承認された。

(4) 会員入退会の件

入会 (個人 7 名)、退会 (個人 34 名) が承認され、合計 (個人 666 名、法人 4 社) となったことが報告された (平成 26 年 5 月 10 日現在)。

(5) その他

第 69 回全国研究大会の準備状況について、開催校 (文京学院大学) より説明があった。また、第 70 回全国研究大会を静岡産業大学において、平成 26 年 11 月 14 日 (金) ~ 16 日 (日) の日程で開催する調整が行われているとの報告があった。

理事会報告

日 時 平成 26 年 5 月 30 日 (金)

場 所 文京学院大学 本郷キャンパス B 館 8 階会議室

議 題

(1) 平成 26 年度通常総会の件

小寫正稔・総務委員長より 5 月 31 日 (土) に開催される通常総会に関する説明があった。

(2) 平成 25 年度活動報告並びに収支決算の件

辻村宏和・組織委員長より平成 25 年度活動報告、小寫正稔・総務委員長より収支決算に関する説明があった。引き続き、亀川雅人・監事より平成 26 年 4 月 22 日に会計監査を行い、本学会の収支報告が適正であるのと監査報告がなされた。

(3) 平成 26 年度活動計画 (案) ならびに収支予算の件

辻村宏和・組織委員長より平成 26 年度活動計画、小寫正稔・総務委員長より収支予算に関する説明があり、それぞれ了承された。

(4) 各委員会からの報告

国際委員会から、韓国経営教育学会への派遣報告者のテーマ募集について、経営教育分野に限定するのではなく、経営学関連のテーマで募集する。他の委員会の活動は、平成 26 年度年次総会報告書の通りである。

(5) 各部会からの報告

北海道・東北部会から、平成 26 年度年次総会資料には開催なしとあるが、平成 25 年 8

月 29 日に北海学園大学で開催しているのので、訂正をする。他の部会の活動は、平成 26 年度年次総会報告書の通りである。

(6) 会員入退会について

入会(個人 6 名)、退会(個人 4 名)が承認され、合計(個人 667 名、法人 5 社)となったことが報告された(平成 26 年 5 月 30 日現在)。

(7) その他

- ・日本経済学会連合の役員選挙において、理事として小椋康宏・常任理事が選出された。
- ・学術情報検索データベース・サービス(CiNii)に機関誌論文を掲載しているが、今後、同サービスの廃止が検討されているために、他のサービスの利用を検討している。
- ・事務局長が、魚住良三氏の退職に伴い、6 月から武市顕義氏に交代した。

平成26年度 年次総会報告

日 時 平成 26 年 5 月 31 日(土)

場 所 文京学院大学 仁愛ホール

議 題

(1) 平成 25 年度活動報告並びに収支決算の件

第 67 回全国研究大会(和光大学)、第 68 回全国研究大会(九州産業大学)、各委員会、各地域部会、各研究部会、産学交流シンポジウムなどの諸報告がなされた。続いて収支決算報告及び監査報告がなされた。これらの報告内容はすべて承認された。

(2) 平成 26 年度活動計画(案)並びに収支予算(案)の件

第 69 回全国研究大会(文京学院大学)、第 70 回全国研究大会(静岡産業大学)、各委員会、各地域部会、各研究部会、産学交流シンポジウムなどについて説明があり、続いて収支予算が示され、共に承認された。

(3) その他

- ・学術情報検索データベース・サービス(CiNii)に機関誌論文を掲載しているが、今後、同サービスの廃止が検討されているために、他のサービスの利用を検討している。
- ・事務局長が、魚住良三氏の退職に伴い、6 月から武市顕義氏に交代した。

◇◇第69回全国研究大会・企業見学記◇◇

下境 芳典(独立行政法人国際協力機構)

今大会の企業見学は、5 月 30 日(土)に日本郵便株式会社の「JPタワー」で行われました。JPタワーは東京駅から直結という最高の立地にあり、2012 年 5 月に開業しました。これは同社の不動産事業の先駆であり、商業・オフィススペースを兼ね備えた話題となっているスポットです。

当日はまず、担当部長様よりビルについて説明を頂きました。当ビルがおそらく日本初の総LED照明のビルであることや、ブラインドが自動制御で太陽光を遮る省エネルギー設計であることなど、設備の先進性について教えて頂きました。また当ビルの価値は単体として

では完結せず、三菱地所などと共同で行われている丸の内再開発の一部でもあり、景観保全のために保存・復元された旧東京中央郵便局のみならず、地下空間に至っても歩行者の利便性や災害対策が施された一大計画であることを示して頂きました。さらに似たような事業が、今後各地方都市でも予定されているというお話もありました。説明の後で、まずは高層フロアからの眺望を楽しませていただき、国際カンファレンスルームや東京大学とのコラボレーションによる博物館、商業施設「KITTE」、地下通路の防災設備などを実際に見せていただきました。

限られた時間での見学でしたが、復元された郵便局や博物館の展示物の「古めかしさ」と他の部分の「新しさ」の見事な共存に驚きました。最後の質疑応答で指摘された通り、昨今の「都心回帰」の流れを作り出している事業のパワーを感じられる有意義な見学会でした。

◇◇第69回全国研究大会・参加記◇◇

仁平 晶文（東京経営短期大学）

日本マネジメント学会第69回全国研究大会が文京学院大学において5月30日から6月1日の日程で開催された。今大会の統一論題である「日本の新しい成長産業とマネジメント革新」のもと、セッション1では、小野瀬拓先生（九州産業大学）がネットワーク理論を援用しながら、企業家に最適なオフィス提供を行うベンチャー支援オフィスネットワークについて報告され、當間政義先生（和光大学）が植物工場ビジネスの背景をふまえた上で、ソーシャルビジネスとしての植物工場の可能性を示唆された。セッション2では、実業界から、保育事業を展開する株式会社JPホールディングス代表取締役の山口洋氏、家事代行業を展開する株式会社ベアーズ専務取締役の高橋ゆき氏が登壇された。セッション3では、安田賢憲先生（創価大学）が自動車産業を題材としながら、産業のソフト化（ICTの活用の促進）とICTを活用する産業の相互依存関係について報告され、公野勉先生（文京学院大学）が製造業におけるキャラクタービジネスを展開していく上で必要とされる著作権マネジメントの実情と新たな課題について報告された。

特別講演では、日本郵便株式会社代表取締役の高橋亨氏が日本郵政グループの経営革新について講演が行われた。講演を締めくくる「社長業には従業員、お客様、提携パートナーといった多様なステークホルダーとの一桁上のレベルでのコミュニケーションが必要不可欠」という言葉には大変な重みを感じた。

大会最終日の午後は、国際セッションにおいて仁川大学校の鄭相哲先生による報告が行われ、10名の報告者による自由論題の各会場では活発な議論が展開された。

今回の大会では、産学官連携のポスターセッションの開催や日本ニュービジネス協議会連合会（JNB）と東京ニュービジネス協議会（NBC）による後援といった、大会運営面におけるイノベーションが志向されたことも大変印象に残っている。今大会の実行委員長の櫻澤仁先生をはじめ、文京学院大学の先生方、そして、学生スタッフの皆さんにあらためて深く感謝申し上げたい。

◇◇北海道・東北部会からのお知らせ◇◇

北海道・東北部会長 大平 義隆（北海学園大学）

下記の通り、平成26年度北海道・東北部会を開催いたします。つきましては、報告者を募集いたしますので、ご希望の方は8月末までに杉田までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

- 日 時：平成26年12月13日（土）14時より
- 場 所：宮城県内（予定）
- 問い合わせ先：副部会長 杉田 博（0225-22-7716 / hsugita@isenshu-u.ac.jp）

◇◇関東部会開催のご案内◇◇

開催校担当教員 松本 芳男（日本大学）

- 日 時：平成26年7月19日（土）14:00～17:30
- 場 所：日本大学商学部3号館3階大会議室
- 報告プログラム（※報告：40分、コメント・質疑20分）

第1報告：14:00～15:00

報告者：豊田 祐輔（成城大学大学院）

テーマ：「持続的競争優位と組織学習ーコア競争力構築・更新の視点からー」

コメンテーター：山崎 秀雄（武蔵大学）

司 会：シュレスタ ブパール マン（千葉商科大学）

<10分休憩>

第2報告：15:10～16:10

報告者：今井 正彦（山城経営研究所）

テーマ：「企業の採用方法の変化に対応した大学における人材育成について」

コメンテーター：内田 賢（東京学芸大学）

司 会：仁平 晶文（東京経営短期大学）

<20分休憩：コーヒーブレイク>

第3報告：16:30～17:30

報告者：柳川 高行（白鷗大学）

テーマ：「戦略的キャリアデザイン論の必要性と可能性

ーメタ・キャリアデザインの重要性ー」

コメンテーター：文 載皓（常葉大学）

司 会：樋口 弘夫（和光大学）

- 参加費等：参加費 1,000円、懇親会費 3,000円

- お問い合わせ：関東部会長・手塚 公登（045-962-6181 / tezuka@seijo.ac.jp）

なお第3回関東部会は12月6日（土）に東洋大学で開催される予定です。また関東部会では随時報告者を募集しております。

◇◇中部部会の開催報告◇◇

藤木 善夫（東海学園大学）

平成 26 年 6 月 28 日（土）14 時より、第 49 回中部部会が東海学園大学栄サテライトにおいて経営哲学学会、経営行動研究学会との 3 学会合同で 37 名の参加者を得て開催された。

第 1 報告は、大鹿哲郎氏（名古屋大学大学院）による「キャリア概念と自己同一性に関する予備的考察」、司会・コメンテーターは加藤里美氏（愛知工業大学）であった。大鹿氏は、学校教育におけるキャリア教育について、職業観、勤労観を付与し、望ましい在り方まで育成しようとしてきたとし、その妥当性について論じられた。

第 2 報告は、今井範行氏（名城大学）による「トヨタ生産システムの進化の可能性に関する一考察－環境と会計の視点の適用とその意義－（仮題）」、司会・コメンテーターは蕎麦谷茂氏（名古屋外国語大学）であった。今井氏は、環境管理会計手法のマテリアルフローコスト会計（MFCA）に時間概念を導入したマテリアルフロータイムコスト（MFTC）によるリードタイム削減の可視化・定量化を提唱され、トヨタ生産システム（TPC）の更なる進化の可能性について報告された。

第 3 報告は、三宅章介氏（東海学園大学）による「キャリア概念とその理解に関する調査研究－中間報告－」、司会・コメンテーターは辻村宏和氏（中部大学）であった。三宅氏は、キャリアという言葉の定義が曖昧であり、各人各様の捉え方が横行しているとの問題意識の下、アンケート調査に基づき、文科省のキャリア教育における定義と実際の関係について、キャリアがどのように理解されているかを検証された。

それぞれの報告終了後には活発な質疑応答がなされ、引き続き、堀田部会長を議長として次回開催校等に関する議事が審議された。

報告会終了後、懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中会員間の交流が深められた。

* * *

第 50 回中部部会は平成 27 年 3 月に中京大学で実施予定です。詳細は決まり次第連絡いたします。奮ってご参加ください。

なお中部部会事務局では、随時報告募集を行っております。報告を希望される方は藤木善夫（東海学園大学 〒470-0207 みよし市福谷町西ノ洞 21-233
TEL：0561-36-5555, fujiki@tokaigakuen-u.ac.jp）までお知らせください。

◇◇関西部会の開催報告◇◇

関西部会長 佐々木 利廣（京都産業大学）

平成 26 年 6 月 28 日（土）13 時 30 分から大阪 NPO センターにおいて、平成 26 年度第 1 回関西部会が開催された。出席者は 25 名であった。

第一報告は、西之坊穂（大阪府立大学大学院）、松本浩子（関西学院大学大学院卒）「成果主義の今後の方向性」というタイトルの報告であった。日本企業の人事制度が 90 年代を境にして職能資格制度中心から成果主義的要素を強調するようになったことを踏まえ、評価や処遇といった成果主義の後工程だけでなく人材育成や配置などの前工程の重要性をデータで実証すること、働く意欲に影響する要因として仕事そのものや処遇・研修制度以外の要因を

明らかにすること、そして従業員の意識の多様化に対応した成果主義をどのように設計するかを考えること、の3つをリサーチクエストとして提起した。そして定量的データ分析と定性的インタビュー調査をもとに、後工程だけでなく前工程への満足度が仕事意欲を向上させること、成果主義制度でも仕事や処遇研修制度以外に雇用の安定性やワークライフバランスなどの働きやすさに関する要因が仕事意欲を高めること、多様な従業員のタイプ別の対応が必要になることを強調した。質疑では、成果主義という言葉の意味する範囲がかなり広いこと、定量的データ分析で使用したデータ源が2004年であり、その後従業員意識は大きく変貌している可能性があること等多数のコメントや質問が出された。

第二報告は、真野毅（京都産業大学大学院）「行政マネジメントから地域経営へ—知識創造経営モデルの公共セクターへの応用」という報告であった。旧来の古典的な行政経営の視点から、自治体マネジメントに民間経営思想を導入するNPM（New Public Management）への移行が叫ばれて久しいが、さらに現在のような多様なアクターの協働による地域経営にシフトしていく時代においてNPMは様々な限界に直面している。報告は、副市長としての経験と野中氏の知識創造モデルをもとに、豊岡市で協働型プログラム評価を導入してきた過程を詳細に報告した。いわゆるNPMから新しい公共サービス論（New Public Service）への移行にむけたアクションリサーチの報告であった。質疑では、市民協働のまちづくりを進めるなかで現場での具体的で実務的な事業遂行に際しては、コミュニティ・キャピタルのような信頼関係が不可欠であること、海外を含めて他の地域との比較が必要であること、いわゆるミドルアップダウンを基本にした知識創造モデルが豊岡市で進められている協働型プログラム評価に適合するのか、などのコメントの他、野中モデルでいうスパイラルアップは公共セクターではどのように進むのか、など多くの質問が提起された。

第三報告は、漆原由香利（有限会社 office ぱれっと）による実務家招待講演であり、「共に過ごせる居場所づくり・ぱれっとの試み」というテーマで報告いただいた。実学一体の学会の場でユニークな試みをされている実務家に報告してもらおうという企画である。招待講演では、1998年に公立幼稚園の入園抽選に漏れた子供たちの居場所として週1回集会場を借りた活動をスタートして以降、子供支援だけでなく高齢者支援、障がい者支援などを通じて、誰もが居心地よく過ごせる場であり誰もがやりがいのある働く場を創ってきた過程を時系列で話していただいた。2003年には有限会社 Office ぱれっとを設立し、2006年にはNPOパレットを設立している。外部評価としても2005年にはおおさかCBアワード2005を受賞し、2010年にはCB・CSOアワード2010優秀賞を受賞し、経済産業省CBノウハウ移転支援事業にも選ばれている。事業をスタートするときに、多様な人がお互いに力を出し合いながら暮らしていける「ぱれっとハウスをつくること」とミニ幼稚園としての「プチぱれっとの種を全国に蒔くこと」という将来ビジョンを掲げ、現在まで全くぶれずに活動を継続していることが印象的であった。

今回の報告は、それぞれ成果主義人事制度、公共経営、ソーシャルビジネスに関するものであったが、どれも現代的テーマであり興味関心を誘発する報告内容であった。とくに公共セクターのマネジメントが転換期に差し掛かっていること、関西でもソーシャルビジネスの動きが定着しつつあることを伺わせる報告会であった。報告会終了後、会場近くのイタリアンレストランに場所を移し懇親会が行われ、会員間の相互交流が行われた。

第2回関西部会は、12月6日（土）に開催予定である。随時研究報告の希望者を募集していますので、幹事までご相談ください。

◇◇中国・九州部会開催のご案内◇◇

開催校担当委員 松藤 賢二郎 (福岡工業大学)

●日 時：平成 26 年 8 月 23 日 (土) 14:00 ~ 16:40

●場 所：福岡工業大学 A棟 2階

平成 26 年度第 1 回中国・九州部会を 8 月 23 日 (土) に福岡工業大学にて開催します。今回はたこ焼き製造販売でおなじみ株式会社八ちゃん堂を一代にして成長させた創業者川邊義隆氏をお招きしての講演会を開催します。

●プログラム

○開会挨拶 (14:00 ~ 14:05)

中国・九州部会長 篠原 淳 (熊本学園大学)

<報告 30 分 質疑 20 分>

○報告 1 (14:05 ~ 14:55)

報告者：河内 明人 (AK マネジメントパートナー)

テーマ：「企業の社会的責任」

○報告 2 (14:55 ~ 15:45)

報告者：大塚 知弘 (日本経済大学)

テーマ：「公的サービスの効率性」

休憩 (15 分)

○特別講演 (16:00 ~ 16:40)

講演者：川邊 義隆 氏 (八ちゃん堂ベトナム株式会社代表取締役社長)

演題：「たかがたこ焼、されどたこ焼 ～チャレンジMMQ～」

○懇親会 (終了後)

●部会参加費 1,000 円

機関誌委員会からのお知らせ

機関誌委員長 樋口 弘夫 (和光大学)

機関誌への次回投稿の締め切りは、平成 26 年 8 月 30 日 (土) です。なお、投稿規程、執筆要領、組見本を遵守ください。詳細は学会 HP でご確認願います。

産学交流シンポジウム開催のお知らせ

産学交流シンポジウムが 9 月 20 日 (土) 立教大学にて開催されます。テーマは、「サービス・マネジメントの本質を探る (仮題)」です。詳細は、ホームページあるいはメールなどでお知らせいたします。どうか奮ってご参加下さまようお願い申し上げます。

事務局長の交代について (編集後記)

新事務局長に武市顕義氏が就任なされました。前任の魚住良三氏には大変お世話になりました。長い間、誠にありがとうございました。 会報委員会一同

発行 日本マネジメント学会
(旧称：日本経営教育学会)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-8-4
株式会社山城経営研究所 (担当：武市)
TEL 03-3264-2100 FAX 03-3234-9988
E-mail: name@kae-yamashiro.co.jp
URL: <http://www.nippon-management.jp/>

印刷 ㈱ドットケイズ TEL 03-5206-1626
E-mail: win@good-ks.co.jp